

「あの日」ヒロシマ・ナガサキ
鑑賞会

朗読劇を鑑賞し、戦争で何が起こるのか、どれだけの被害が出たのかを知る事ができました。今の世の中はとても平和です。戦争から今日までにたくさんの人たちが頑張ってきたからこそ今があるのだと感じました。日々、感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

浜岡中学校 3年1組
さいた わかな
齋田 和奏 さん



▲7月4日に浜岡中学校3年生を対象に実施された「朗読劇『あの日』ヒロシマ・ナガサキ」の様子。戦争の惨状に、生徒らは時折目を伏せながらも、真剣に耳を傾けた。同校では、毎年夏休み前の時期に鑑賞会を設け、平和を考える機会としている。
御前崎中学校でも9月実施予定。
ピノキオでは、依頼があれば市外でも朗読劇を実施している。

【参考文献】『御前崎町史』、『浜岡町史』
【写真引用】『御前崎町史 写真集』、『浜岡町・閉町記念写真集 風紋』

この夏は家族と、73年前に思いをはせる夏、平和の尊さについて考える夏にしてみませんか？戦争体験者の思い、願いを、少しでも後世へー。

終

戦争の記憶は年月とともに確実に色あせていき、歴史上の一部となりつつあります。
戦争の悲惨さと平和の尊さを広く伝えようと活動する団体があります。市内の読み聞かせボランティア「ピノキオ」の皆さんもその団体の一つです。
「朗読劇『あの日』ヒロシマ・ナガサキ」をやり始めたのは13年前。戦争に関する読み聞かせをやってはどうかという声があり、メンバー全員が賛成したのがきっかけです。私たちならできる、私たちには語り継ぐ責務がある、そう強く感じました」と、代表の判治純代さんは話します。

戦争は二度とやってはいけません。これは、誰しもが願うことでしょう。しかし、何もしないままでは、あの悲惨な出来事は風化し、現実味を帯びない過去の出来事になってしまいます。歴史を繰り返すことになりかねません。あの過ちを繰り返さないために、私たちには何ができるのでしょうか。
「体験者から私たち、私たちから後世へと、みんなが語り継いでいくことが大切だと思っています。戦争はやってはいけません。生きたくても生きられなかった人がこんなにもいたのだと。体験者の方には、当時を思い出すと切ない気持ちになることも、子どもたちに伝えてほしいと思っています。」
戦争は、学校の授業で習いますが、それ以上の事は体験者の言葉を聞くことでしか学べません。なるべく多くの人の言葉を届けて、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えたいと思っています。

▶読み聞かせボランティア「ピノキオ」の皆さん。代表判治純代さん(前列左)



す」。判治さんは、活動の必要性と一人一人の行動の大切さをそう話しました。

大切なのは
みんなが語り継ぐこと

ここ御前崎の地にも、人にも、戦争の記憶が残っています。戦争は歴史の授業で学ぶコマではありません。身近な実話なのです。今回の取材を通じて、当たり前のように日常生活が送れることは、とても幸せなことなのだと感じました。

「戦争は本当にこりごりだ。みんなで平和に暮らしたい。」戦争のない平和な社会を未来へ継承するためには、そうした戦争体験者の気持ちや戦争の事実をしつかりと受け止め、向き合い、次世代へ語り継ぐことが重要です。

たった73年前に繰り返されられた戦争。重く尊い犠牲の上に今の私たちの生活があることを忘れてはなりません。次代に受け継いでいかなければいけません。これは今、戦争体験者と同じ時代に生きる私たちの使命ではないでしょうか。